

第1回 生駒市子ども・子育て会議 会議録

日 時	令和元年7月24日（水） 午後3時～午後4時25分
場 所	生駒市コミュニティセンター 会議室203・204
出席者	会 長 吉岡 眞知子 副 会 長 清水 益治 委 員 白樫 学 武田 香織 前田 良一 柴田 玲子 岡島 保弘 谷猪 富貴子 堀田 勝 崎山 良子 藤田 玉緒
事務局	こども課
会議の公開	公開
傍 聴 者	あり

1. 開会

2. 委員紹介

（事務局より委員紹介）

職員紹介

（職員自己紹介）

3. 諮問

4. 議題

（1）生駒市子ども・子育て会議への諮問事項について

第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画の策定について

（2）特定教育保育施設・特定地域型保育事業の認可及び利用定員設定の報告について

（3）特定教育保育施設の利用定員の設定に係る意見聴取について

会 長：それでは議題（1）生駒市子ども・子育て会議への諮問事項について、事務局より説明をお願いします。

事務局：（資料説明）

会 長：ただ今の説明に関して、質問・意見はありますか。

副会長：今回6月の調査の結果なので、無償化が動きだしたら変化するかもしれない。今回の調査には反映されていないこともあると思われる。それをどのように拾うか。拾

わずにいくかも含めて検討していただきたい。窓口を作って市民の声を寄せてもらうなど、対応をしていかなければいけない。

事務局：問 14 で就労状況の変化をつかむための質問をしている。

会 長：6月調査はまだ無償化が実施されていない時の意見であり、無償化の実施前と実施後では変化があると思うので、それをどのようにキャッチするかという意見である。調査の数字ではなく、委員の方々などから無償化後の声や変化をキャッチして反映できるとよい。

委 員：無償化の月額が決まっている。あくまで対象は保育料で、その他は対象外であると伝えている。

委 員：幼稚園の預かり保育を利用しているが、保育所に代わりたいと言えば、すぐにでも代われるのか。無償化だけが先走って、無謀な話がいろいろなところで飛び交っているが、幼稚園で文書の配布等しており、この先の落ち着き具合はこのアンケートに出てくるかもしれない。

会 長：生の声も含めてキャッチして反映することを考えていきたい。

会 長：それでは議題（2）特定教育保育施設・特定地域型保育事業の認可及び利用定員設定の報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料説明）

会 長：ただ今の説明に関して、ご質問はありませんか。
4月からスタートした2園について、在園児童の現在の利用状況は。

事務局：きたやまと保育園は定員19名で、現在の利用者が7名と聞いている。

会 長：いこまこども園は25名プラスでいっぱいになっている。そのあたりの状況は。

事務局：資料の最後に平成31年度市内保育園・こども園の園児数が掲載されています。

委 員：小規模保育所は2歳までということで3歳以降が不安であるとよく聞く。3歳からどこの園に行けるという保障はあるのか。

事務局：連携園という形で2～3園設定されており、基本的に受け皿は確保されている。

委 員：基本的に連携園に入れるということか。

会 長：この2園については、希望があれば連携園は優先されるのか。

事務局：緩和措置されて入りやすくなる。

委員：3歳の壁というのも聞くので。

事務局：国では3歳の壁が問題になっている。法律が緩和され、連携園を設定しなくても小規模園を開園できるようになった。他方、特区をとっている自治体であれば3歳以上の小規模園も開園できるという動きがある。現在生駒市では連携園による受入れ環境が整っており、小規模園を卒園した後、入園先がなく待機になるということはない。

会長：今は小規模園が5園ある。生駒市としては3歳になった時に困る人はいないということか。

事務局：その通りです。

会長：小規模園を作っているときには、連携園が枠を空けている。今の話だと「定員が空いているからいけるだろう」ということになっている。「連携園に必ずいける」という枠を設定している市町村もある。ある市では、小規模園から8名とすると、8名分は連携園を希望すれば、優先して入れる枠を空けている。連携園が詰まっていたら断られる可能性はないのか。

事務局：基本的には3歳児に4月入園の時には優先的に入っていただく。ただ、連携園の園児が増えてきているので、その園に3歳児から入園しようと思っていた人が若干入りにくくなってきているという課題がある。

会長：ききほどの市の場合は連携園で重ならないように定員枠を分けている。小規模園の人数が少ないのはそういう不安があるからかもしれない。ニーズを聞いて解消してあげないと保護者も不安になる。

事務局：生駒市の南こども園のみなみ保育園の部分と、生駒駅の近くの中保育園で3歳児の定員の増加を予定している。次の案件で説明したい。

委員：小規模保育事業では0歳から2歳と限定されているが、なぜそこで2歳で切るのかがよくわからない。どういう意味があるのか。

事務局：生駒市も3歳から幼稚園に入園できる。全国的にも0歳から2歳は待機児童が多い現状がある。一つは、3歳からは幼稚園の受け皿があるということや、保育士1人で受け入れられる数が0歳は3人だが3歳では15人というように5倍に増えている。0歳から2歳の待機児童対策として、国は平成27年から小規模保育事業を進めている。

会長：国の対策として、3歳までの待機児童を解消し、3歳未満の受け皿を増やすために作りやすい小規模で進めている。3歳になれば、幼稚園、こども園、保育所を選んで行ってもらおう。

会 長：それでは議題（3）特定教育保育施設の利用定員の設定に係る意見聴取について、事務局より説明をお願いします。

事務局：（資料説明）

会 長：こども園の定員は同じだが、保育所の枠を増やして幼稚園の枠を減らす予定ということ。今の説明を聞いてご質問・ご意見はありませんか。

委 員：小規模園をやっているところは連携施設で母体型だから、その地域の3歳児で保育所に入れない人が増えるのではないか。中保育園地域やみなみ保育園だけで充足できるのか。

事務局：ソフィア谷田保育園といちぶちどりキッズたにだは生駒駅の近くにある。この2園と公立のひがし保育園や小平尾保育園が連携園となっており、通っている地域から見ると少し遠い。以前から「どうして中保育園が連携園でないのか」という声が上がっていたが、中保育園は駅に一番近く、待機児童が多いので難しかったが、今回増築することで連携園として受入れが可能となることを期待している。

副会長：3歳児を20人増やすことについて。その子供たちはその後4歳、5歳になるが、そのあたりの計画はどうか。

事務局：保育室面積からいうと、20人がギリギリ。本来は15人ぐらいが望ましい。まだ検討の余地がある。

会 長：中保育園の3歳は60人になり、4歳は40人ということか。

事務局：3歳で20人増やすと、その次の年には3歳、さらにその次の年には4歳がそれぞれ20人ずつ増えることになる。

会 長：3年後に園全体では60名増えるということか。

事務局：そういうことである。

会 長：来年は、4歳も5歳も増やすのか。

事務局：来年4月は3歳だけと考えていたが、検討する。

副会長：面積的にはいけるとしても部屋としていけるかどうか。

会 長：5歳児は今40人の部屋だが、60人を想定しなければいけない。

事務局：5歳児クラスは今2つある。

委 員：4歳と5歳も同時に増やしたらいい。

会 長：段階的に増やすのではなく「来年から4歳児クラス・5歳児クラスも同時に増やしてはどうか」という意見である。

事務局：来年に4・5歳のクラスも増やすには、園全体の部屋割りを検討・変更しなければいけない。引き続きの検討としたい。スペースの問題と同時に保育士の確保が必要。どうやって確保するかが大きなテーマである。保育士が確保できれば待機児童を受け入れられる。

委 員：4歳から5歳は、園児20人が30人になっても保育士の人数に変わりはないのか。

委 員：今だと20人20人入っているのが、30人30人入れば大きく変わる。

事務局：長時間保育なので、例えば朝の時間は別に人が必要になる。

事務局：今、配慮を要する子どもが大変増えていて、加配されている。その分の加配として、1クラスに2人、多い所は3人担任になっており、そのことも絡んでくると思う。人数定数は30対1なので、人数の割合からいうと定数からはあまり変わらない。

委 員：保育士不足は後に解消される予定はあるのか。来年順番に上がっていくのであれば、今取ってしまえば無理やり詰めていかなければいけない。先のみえない安易な取り方をして大丈夫か。

会 長：今年が足りないので3歳からだが、来年の見通しはどうなっているのか。見通しとしては、4歳・5歳も同時にスタートしてはどうか。保育士不足は2年後3年後に解消されるかという、今と一緒にではないのかという話。定員はここに上がっているけれども、現状は埋まっていない。生駒市はそれだけの保育所の定員があるというが、待機も増えて、実は保育士がいらないから定員はあるけど定員ではない。そのあたりはどうか。

事務局：中保育園の場合、0歳児の定員は18人だが、入っているのは9人。本来は0歳児3人に対して保育士が1人なので、保育士が6人いれば、定員18人は入ってもらえるが、保育士が3人しかいないので9人。生駒市で一番人気の保育所でも保育士が不足している。現状は募集しても応募自体がない。

委 員：実質の定員が今はどこも埋まっている。どんなに箱を作っても、保育士なくして保育所は成り立たない。

事務局：常に募集をかけて人探しをしている。いろいろな説明会や、今年は私立保育所の協力をいただいて市内の保育所を回るバスツアーを企画した。資格を持っているけれども働いていない潜在保育士の掘り起こしを民間保育所と一緒にやっている。8月1日から1人入職することが決まったので、待機児童を即受け入れる。まずは受け入れの体制を調べて、常時人を探して見つければ、即待機児童を受けている。

委員：どれだけその人が続くのかというところも保育所では見えてこないけれども、働き続けられる環境をつくっていくのは最後の問題だと思う。なぜ資格を持っているのに来ないのかというところから考えていかないと、結局待機児童は同じ。続けられる環境の対策も必要。なぜ保育士として働かないのか。

事務局：昨今、働き方改革と言われて保育所や幼稚園の現場でもキャリアのある先生方と、新卒者では働き方に対する意識も異なる。日々現場では注意を払って指導しているが、若い人が働きやすい職場にするよう、ワークライフバランスを考えて環境づくりをしないといけない。園の管理職と意識改革をしながら取り組んでいる。

会長：保育士不足と定員が埋まることについては。

委員：厳しい。育休や産休に入る人が多い。今は少し余裕があっても待機児童対策にすぐに踏み込めない。

会長：定員を増やせる環境を作っておきたいというのが市の方針。お母さんからのニーズなどを聞かされることはあるか。

委員：相談はよくある。生駒市では保育士の養成をしていないのか。この学校を卒業したらこの保育所に優先していけるというように就職の確約ができるようにならないのか。

副会長：学生にはいろいろ希望もある。これから保育で求められるのは質を保証することだと思う。これからもっと保護者も働きに出ることになる。その時に受け入れてその質を保証する。質とは、保育所・保育士自身が幼保連携型認定こども園教育・保育要領など国が定めている最低の基準を満たすことだと思う。そのためには指導主事の立場の人を増やしていく。今働いている人を指導主事の形にして、若い人を雇ってもらおう。その流れで少しの間はいくのではないか。限りある財源の中で、どんどん新しい人を雇うというわけにはいかない。無償化によって、これからもっと保育を利用するようになると思う。その時にたくさん雇ってもらいつつ経験を積んだ人達に指導主事の立場であちこち回ってもらって質を高めていくことが求められる。

会長：地域によっては社協が奨学金を出して、その代わり5年間自治体内のどこかの民間で働いてもらうというのがある。介護もよくそれをしているが、保育でも増えてきた。奨学金を出している自治体もある。ただ、5年間も縛られるのが嫌で利用しない学生もいる。保育士不足は全国的。スペースがあっても利用者はいるけれども、保育士不足で受け入れられないことのほうが大きな問題である。

5. その他

会長：それでは続いて、事務局より説明をお願いします。

事務局：資料6 スケジュールについて説明

会 長：スケジュールについて、皆様の予定も含めてご意見はありませんか。

事務局：2月の会議は、2月4日（火）午後3時からでお願いしたい。会場は、次回からは市役所で。場所は未定だが、決定次第お知らせする。

第6回の会議は、2月18日（火）または2月21日（金）の午後3時からお願いしたい。

会 長：2月18日（火）15時に。

事務局：2月の会議は場所が決まればお知らせする。

会 長：他に全体的なことでもよいのでご質問・ご意見はありませんか。

委 員：小学生と幼稚園の子がいるが、どちらも辞める先生が多いと実感している

委 員：未就園の方に子育て支援をしているが、最近は参加年齢が低くなっている。「こういう園に入りたい」と保護者は思っていて、今は各園でも未就園児の保護者を呼んで行事を計画することがある。保護者の情報交換はさかんで「今日はここでこんなことがあるよ」という情報はすぐに広がる。不安を持っている人がおられることをひしひしと感じる。今は働いている人も多いが、産休で子どもと一緒に遊びにくる人もいる。鹿ノ台は北の端なので、子育て支援総合センターにも来にくいという人もいる。近くの会館に拠点があるとよい。キッズルームもある鹿ノ台のような場所が他のところにもあるとよい。

委 員：産休中に市の行事に参加していた。車で20～30分。私はその1歩を踏み出せたので仲間ができた。鹿ノ台に、子どもが遊べる場所ができた。幼稚園前の子が気軽に親と遊べる場所は充実していると思うが、3歳を過ぎると行く場所が少ない。鹿ノ台は小学校に入るまで行けるのでありがたいが、小学生が遊べるような環境も作ってほしい。

会 長：未就園児の遊べる場所は充実してきたけれども幼稚園児やちょっと大きい子たちの行き場所が気になる。

委 員：公園が少ない。幼稚園児や低学年の子どもが遊べる公園があるとよい。市役所の前の公園も遊具が使えるとよい。

事務局：3歳から5歳の居場所づくり。在園児は園庭開放などで遊具を使って遊ぶことができる。預かり保育で友だち同士遊ぶ時にも利用できるのでは、在園児の居場所として進めている。

会 長：在園していなくて離れていると、行くところがない。

委 員：知らないところに行くことで出会いもある。

委員：余っている部屋を開放してあげて親子で有効利用できないか。

事務局：幼稚園でも空き室を開放しているが、公立幼稚園は便利な立地が少ない。新しい地域の人がある情報を得ても、いつも行くのは難しい。保護者のニーズとしては、子どもをみてほしい、友達と遊ばせたい。でもいつ何人集っているかは情報を得にくい。親子で過ごすための場所の提供という形になっているが、来ている人は何かを期待して集まってきている。

委員：限定して開放したら集まりやすくないか。

事務局：どんなふうに発信すればよいか。利用者にSNSで発信して呼びかけてもらう方法も有効ではないかと思う。各園からホームページでは発信している。

会長：いろいろ工夫しながら有効活用できるよう考えることが大事。利用しづらいところはどこにあるのか。

委員：1回行くとその場でつながっていくが。

会長：他に、次回に向けてでも何かご意見はありませんか。

副会長：今回はデータを見て。質の保証に絡めて。預かり保育は幼稚園の「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動」なので、「引き続き」とは入っていない。教育を受けてなくても利用できる。ということは、今後は預かることをやっているところは保証しないといけないというふうになってくる可能性がある。

会長：いろいろやっているがなかなか使いにくい。

副会長：この場でいろいろな意見が出るとそっちへ動きやすくなると思う。全部うまくいくとは限らないが、声をあげないと変わらない。

会長：大学でやっている「こども広場」は、対象を限定していないが、午前中は未就園児、午後は幼稚園の子どもが増える。夏休みは小学生が来る。子ども同士の縦の関係を作りたいから、敢えて年齢を区切らない。今後、地域の子育て広場が未就園児のためなのか地域の子どものためなのかということ、発想を変えて考える必要があるかと思う。異年齢の子が入ることによってよさも出てくる可能性もあるということで発信しても面白いと思う。これで質疑が終了したので、事務局に議事進行をお返しする。

6. 閉会